

# 構造チェックリスト ———— 鉄筋コンクリート造 ————

作成日 ( 年 月 日 )

建築士事務所名		構造設計事務所名		
設計者名		構造担当者名	印	
工事名称		工事種別	新築 増築 改築	
敷地位置		用途		
規模	地下 階 地上 階 塔屋 階	建物高さ	軒高 m 最高高 m	
項目	適用条項	チェック項目		
1 荷重 及 び 外 力	固定荷重	令84	(特記事項のみ記入)	
	積載荷重	令85	室の種類 対象 床 小ばり 大ばり・柱 地震 備考	
				N/m <sup>2</sup>
			高架水槽 kN エレベーター kN× 基 冷却塔 kN× 基 広告塔 kN	
	特殊荷重	令83	*有、無	
	積雪荷重	令86	垂直積雪量 cm 単位荷重 20 N/m <sup>2</sup> /cm 設計採用値 N/m <sup>2</sup>	
	風圧力	令39 令82の5 令87	告示1455 行政庁規則	地表面粗度区分：I、II、III、IV Z <sub>0</sub> = m Z <sub>G</sub> = m α=
		令88	告示1388	基準風速 V <sub>0</sub> = m/s ガスト影響係数 G <sub>f</sub> =
		令129の2の4	告示1389 告示1793 (通)96	1次固有周期 T= 秒 地盤種別による T <sub>c</sub> = 振動特性係数 R <sub>t</sub> = 地域係数 Z= 標準せん断力係数 C <sub>0</sub> = 塔屋水平震度 k = 計算書該当ページ (p. ) 特記事項
	地震力	T Tc Rt Z Co k Ai Ci	令88 令129の2の4	告示1388 告示1389 告示1793 (通)96
土圧	令83	土圧を受ける壁に対しK <sub>0</sub> =		
水圧	令83	地下水位 GL- m 設計採用水位 GL- m		
2 使用 材料	コンクリート	令72 告示1102	普通コンクリート F= N/mm <sup>2</sup> 単位重量 γ= kN/m <sup>3</sup> 使用場所	
		令74 告示1450	F= N/mm <sup>2</sup> 単位重量 γ= kN/m <sup>3</sup> 使用場所	
		令91 告示1462	F= N/mm <sup>2</sup> 単位重量 γ= kN/m <sup>3</sup> 使用場所	
		令97	軽量コンクリート F= N/mm <sup>2</sup> 単位重量 γ= kN/m <sup>3</sup> 使用場所	
	鉄筋	令90 告示2464	種別 使用よび径 種別 使用よび径	
	令96	SD295 SR235 SD345 SD390		
3 地盤 の 許 容 力 度 支 持 力	地盤調査	令93 告示1113	敷地内地盤調査 有 (深さ m)、*無 支持層の土質 調査方法 ( ) 設計採用N値	
	許容応力度	令93 告示1113	基礎深さ GL- m 計算上の採用 D <sub>f</sub> = m 長期= kN/m <sup>2</sup> 、短期= kN/m <sup>2</sup> 地盤改良 有 (工法： )、無	
	くい仕様	令93 告示1113 (通)806 (通)2	くい種 最大軸径 cm 最大先端径 cm くい長 m 施工法 支持力 (最大径) 長期： kN/本 短期： kN/本 *引抜抵抗力 kN/本 負の摩擦力検討 *有、無	
4 基礎	形式	令38 告示1347	独立基礎 ベタ基礎 布基礎	
	偏心		偏心基礎 有、無 有のときの処理方法	
	異種	令38	異種基礎の併用 *有、無 (原則として異種基礎の併用は避ける)	
5 構造 計画	沈下	令38	沈下に対する検討 省略 即時沈下 圧密沈下	
	構造計画		計算書該当ページ (p. ) 特記が有れば記載	
	増築予定		増築予定 *有、無 増築後 階、高さ= m	
	特殊構造	告示1320	プレストレストコンクリート部分 *有、無 有のときの技術的基準	
	エキスパンション	令81	エキスパンションジョイント：有 ( cm)、無 基礎：一体、分離	
水平力の配分			精算 D値法 *その他	
	梁・床の変形計算	令36の2 令82	告示1459 梁 D/L>1/10 床 t/Lx>1/30 片持床 t/Lx>1/10 D/L≤1/10 (P. ) 床 t/Lx≤1/30 (P. ) 片持床 t/Lx≤1/10 (P. )	

令……建築基準法施行令 告示……国土交通省告示 (通)……建設省旧通達 大阪府内建築行政連絡協議会 編集 (株)大阪建築士事務所協会

2003年度版

(注) 1. 必要項目は書き入れを、選択形式のものは該当する箇所にチェック後○印を記入してください。  
2. \*印項目記入の際は、その内容を構造計算書に明記してください。

項目	適用条項	チェック項目			
6 電算機の利用	(通)202	プログラム名：	基本計算	応力計算	断面算定
7 解析方法		立体解析	疑似立体解析	その他：	
8 耐力壁の剛性	令77	柱のせん断応力	Myによる	Q <sub>E</sub> の割り増しによる n=	h/h <sub>0</sub> の割増
		せん断補強筋比 (最大値) P <sub>w</sub> =	%	高強度せん断補強筋の使用	有、無
	令78	梁のせん断応力	Myによる	Q <sub>E</sub> の割り増しによる n=	ℓ/ℓ <sub>0</sub> の割増
		せん断補強筋比 (最大値) P <sub>w</sub> =	%	高強度せん断補強筋の使用	有、無
耐力壁	令78の2	せん断補強筋比 (最大値) P <sub>s</sub> = %			
柱梁仕口		検討 有 (P. )、無			
9 基礎		処理方法	接地圧	側面土圧	くいの水平抵抗 斜ぐい
引抜き力		基礎浮き上がり *有、無 有のときの処理方法：			
電算機の利用	(通)202	プログラム名：			
10 算出方法		荷重増分法	変位増分法	節点振分法	仮想仕事法 その他 ( )
耐力壁		境界ばり効果	直交ばり効果	基礎の回転	
必要保有水平耐力 Q <sub>un</sub>	令82の4 令96~99	告示1792 告示1450 告示1451 告示2464 告示2466 (通)96	Ds : 計算書該当ページ (P. )	最大値：X方向 ( 階)、Y方向 ( 階)	
			Fes : 計算書該当ページ (P. )	最大値：X方向 ( 階)、Y方向 ( 階)	
			Q <sub>un</sub> : 計算書該当ページ (P. )		
			Qu : 計算書該当ページ (P. )	Qu/Q <sub>un</sub> の最小値：X方向 ( 階) : Y方向 ( 階)	

